

日程 令和元年 7月 7日～9日 (越後～会津) 八十里越え

7/8 吉ヶ平ー番屋乗越ーブナ沢渡渉点ー殿様清水ー鞍掛峠ー田代平石碑ー木の根峠ー大間平ーゲートー民宿(泊)

撮影者 野村



←<八十里越え>

その困難さゆえに八里の道を八十里と呼んだと言う。

ここ八十里越えは歴史の道である。それは又、見事なブナの道でもあった。そして、風が渡る道であった。・・・遙か古も同じ風が通ったのだろうか？ ふと、想いを馳せて歩いた。

→<夏草の道>

八十里越えは更に夏草の生い茂る道でもあった。それは夢の跡でもある。



←<トラバース道>

片斜面トラバースの道も多い。山ひだから派生する数え切れない中小の沢越えを余儀なくされる。



→<ブナの森>

ブナの森は保水の山でもある。あふれた水は山肌からしみだし、地面を濡らし、湿地となる。



↓<木の根峠>



八十里越え最高地点。これを越えると会津である。八十里峠の名の石碑と木の根峠の名の石碑と二つの石碑が向かいあっている。

越後瞽女は日々の生活の糧のため、この峠道を越えて各地を廻ったと言う。目も見えず、それはどんなに苦難の峠越えであったろうか。



←<粟の岳>

川地山塊の盟主・粟の岳が存在感を示している。何時見ても姿の良い山である。



←<守門岳の断崖>

東洋一の雪庇が出来るといふ断崖が見える。やがて浅草岳や毛猛山も見えてきた。

この歴史の道は秋は更にすばらしいに違いない。